

第 634 回：問題設定を試みる（3）（DM）

みなさま、こんにちは。LA 毎週月曜 14:00~17:00 担当、博士課程（後期）の DM です。今回は、問題設定をより具体的にしていく方法をお伝えしていきます。

今回は、自分の設定した問題を参考文献と結びつける方法を紹介しました。これで、自分の主題と対象の設定に、一定の根拠が見つかりました。

とはいえ、論文は、主張したいことがあるから書くものです。主張がなければ、その問題設定は不十分なのでは？……

——主張って、調べながら決めていくものじゃないの？

——それはそう。だけど、ある程度の見通しがなくちゃ、何をどう調べていけばいいのか、そもそも見当がつかないでしょ？

……と、ここでオススメしたいのは、他人の主張を「モデル」にしてみる、という方法です。

これは、参考文献に書かれてある意見を、自分の主張の「モデル」にしてみる、という方法です。まともな資料であれば、根拠のある意見が述べられてある筈です。ですから、自分の関心に近い参考文献が見つかった時点で、そこに書かれてある意見と根拠を、自分なりにまとめてみるのです（もちろん、参照元の明記は忘れずに）。

そうすると、自分の主張の「モデル」がひとつ出来上がります。

たとえば、私が最初に読んだ参考文献、磯田光一の「埴谷雄高の人と作品」の内容だけを使って、論証可能な意見を組み立ててみる

としましょう。ひとまず、こんなものが出来ます（磯田 1982: 19-21）。

意見：『死霊』における「自同律の不快」はカント哲学の議論を参照している

根拠①：埴谷雄高の『死霊』では「俺は俺である」という自同律に対する不快さが強調されている

根拠②：埴谷雄高はカントの『純粋理性批判』から受けた影響について公言している

根拠③：『純粋理性批判』では「私」に関する自同律（同一律）が批判の対象になっている

結論：埴谷雄高はカントの議論を参照しながら「自同律の不快」を問題にした

正直、この「モデル」は微妙です。単に初歩的な事実を主張しているだけだし、根拠の配列が適切かどうかとも怪しいし、そもそも、磯田の論考自体は、もっとちゃんとしたことを言っている！

とはいえ、最初の段階では、これで十分です。なぜなら、少なくともこの「モデル」は、対象を『死霊』、主題を「自同律の不快」に設定した主張を行っており、私の問題設定に合っているからです。

最初に簡単な「モデル」を作っておくと、この「モデル」を改良していくという形で、その後の作業を進めていくことができます。先に「モデル」があれば、さらに調査が進んだ段階で、自分にとってのよりよい意見、よりよい根拠に、「モデル」のデータを組み替えていくことができます。「モデル」にはない意見を論証できれば、卒論だって書けます

第 634 回 : 問題設定を試みる (3) (DM)

とも！

ちなみに、この「モデル改良法」とでも言うべき方法は、似たようなものが、戸田山であれば「論文の種」(戸田山 2022 : 114-160)、小熊であれば「仮説生成法」(小熊 2022 : 180-187)として、詳しく説明されています。ご参照ください。

以上が今回の LA 通信です。レポートの「モデル」が出来上がりましたので、ここからは、問題設定の次の作業、資料調査に移っていきます。

次回もどうぞよろしくお願いいたします。

参考文献

磯田光一「埴谷雄高の人と作品」磯田光一、北川透[編]『埴谷雄高 ; 吉本隆明』(鑑賞日本現代文学 ; 第 30 巻)、角川書店、1982 年 : N910.26=14=30、閲覧室書架

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』(講談社現代新書 ; 2660) 講談社、2022 年 : K2660、閲覧室入口正面

戸田山和久『論文の教室 : レポートから卒論まで』(NHK ブックス, 1272; 最新版)、2022 年 : N816.5==140、閲覧室入口正面